

■田中久重(初代儀右衛門) 天才的技術者。幼時より次々と発明、世界に優る万年時計に至り、〔東芝〕の祖になった。

たなかひさしげ

蝦夷地直轄始1799＝ 筑後国久留米で、べっこう細工師弥右衛門の長男に生まれる。

幼時より好奇心一杯で、父の細工仕事や置いてある外国のカタログなど熱心に見て育ち、

♫ｼﾝﾈﾂ船狼藉・ 1807＝ 8歳：手習屋に通い、算術を学ぶや天才ぶりを発揮し始め、仕掛けある硯箱をつくって、町内の評判になる。

ﾌｧｰﾄﾝ号事件 1808＝ 9歳： その後も、竹輪水揚、懐中枕など次々つくり、

浮世床・・・ 1813＝14歳： 貸本屋で細川頼直が著したからくり図解の本「機巧図彙」を見つけるや、父に申し出て、家は弟に継いでもらうことにし、自らは考案で身を立てることを目標とし、
黒住教・・・ 1814＝15歳： *評判を聞きつけた久留米緋の師匠井上伝に頼まれると、早速、希望した以上の絵形組み方と織機を工夫発明して、伝を感激させ、

伊能測量終・ 1816＝17歳： 「竹の輪水揚げからくり人形」を考案、からくり師としての処女作になるとともに、工夫を重ねて、他の追随を許さないものに発展させ、
杉田玄白没・ 1817＝18歳： 早くも、筑後川向こう他領甘木で興行して大成功を納めるなど、確信を持つことになる。
水野忠成老中 1818＝19歳： 安堵したのか、父が死去。

群書類従完結 1819＝20歳： *水圧を利用した「水力からくり雲切人形」を考案、絶賛を浴び、五穀神社の例祭の一番の出し物となる。以後、次々と傑作からくりを考案、金工等、久留米の優れた職人らと連携して製作し、五穀神社の例祭ばかりでなく、興行師とも連携して、城下の様々な祭りで“からくり芝居”を催して稼ぐなど、総合プロデューサーの役割も担い、“からくり儀右衛門”と呼ばれるようになる。

・・・ 1820＝21歳： 近くの櫛屋の次女と結婚。国友藤兵衛の本で知った風砲を製作、藩主に召し上げられ、借金だけが残る。
英船浦賀来航 1822＝22歳： 長女が誕生。

ｼﾎﾞﾙﾄ嶋滝塾 1824＝25歳： 妻と娘を置いて、肥前佐賀、肥後で興行して大評判得ると、大坂に向かい、空前の大成功、ついには1日1万人を超えるほどで、風砲での失敗を取り戻したばかりか、大身の武家に匹敵する収入を得る。

異国船打払令 1825＝26歳： 満を持して、一座を率いて江戸興行に向かうが、あいにく雨天続きで出費ばかり嵩み、やむなく伯父のいる加賀大聖寺に赴くと、伯父は死去していて、ついには生活費まで困る苦境に陥った上、母まで死去し、
・・・ 1826＝27歳： 久留米に戻る。以後、しばらく消息不明になる。

ｼﾎﾞﾙﾄ追放・ 1829＝30歳： 挽回すべく、大坂で再び水からくり興行をするも、焼け石に水で、

高島砲術・・・ 1834＝35歳： 生活苦だけでなく、'道楽にうつつを抜かしているからだ'などの中傷に耐えきれず、一家をあけて大坂に移り住み、実用重視に転換、時計の修理を手始めに、懐中燭台を考案してヒット、その製造販売で生計をたて、続けて最大のヒット商品「無尽灯」を発明、企業家への一歩を踏み出すが、

滑稽+人情本 1835＝36歳：
大塩平八郎乱 1837＝38歳： 大塩平八郎の乱で家財が烏有に帰したため、伯母を頼って、伏見に移って開業、「無尽灯」「ネズミ灯」の製造販売によって、直ぐに窮状から脱し、順調に発展して行く。

勅進帳初演・ 1840＝41歳： この間、天文学者間重富のために測器を製作している戸田東三郎と懇意になり、その影響で、

天保改革始・ 1841＝42歳： 長女の婿に弟子の岩吉を迎え養子とすると、真理や原理を学ぼうと一念発起、
時計の研究を深めるため、四条にあった天文観測機器製作の(報時館)戸田東三郎に入門、

天保改革終・ 1844＝45歳： その紹介で、蘭学者広瀬元恭の{時習堂}にも入門。呉服商野村卯兵衛の後援を得るようになる。

阿部正弘首座 1845＝46歳： {時習堂}の受講料代りに、妹イネを賄い婦に出したところ、まもなく広瀬元恭と結婚。

一通りマスターすると、さらに極める以上に資格を得るべく、戸田東三郎の勧めで、

・・・ 1847＝48歳： 天文暦学の土御門家の{斎政館}に入門、田中久重の名をもらう。長州の僧の依頼で「須弥山儀」に着手、野村卯兵衛が京都に工房付きの家作まで用意してくれ、

北斎没・・・ 1849＝50歳： 嵯峨御所より御用時計師に与えられる近江大掾の称号を授かる。婿の岩吉に2代儀右衛門を名乗らせ、京都に{機巧堂}という店舗をかまえる。「無尽灯」「ネズミ灯」はじめ、天文・砲術・医家用道具類など製造販売。卯兵衛の後援で販路は広がり、なかでも、卯兵衛に贈った消火器「雲竜水」は、ヒット商品となる。

国定忠治磔・ 1850＝51歳： それまでの動力仕掛けを集大成するような天文運行示す「須弥山儀」が完成、各所の要望で何台も製造。

尊徳報徳論・ 1851＝52歳： *ついに、江戸期最高の超精密な時計「万年自鳴鐘」の完成に至る。大評判になってもてはやされるうち、虚脱感で苦悩、原点の戻ろうと、広瀬元恭を訪ね、同門の佐野常民から佐賀藩で蒸気船製造の話を知ると、

万次郎帰国・ 1852＝53歳： 早速、ワットの蒸気機関を参考に、蒸気船の模型を作って評判となり、蒸気砲という大砲の模型も製作、
ペリー来航・ 1853＝54歳： 口述筆記で「蒸気砲会心録」を著す。ペリー来航の報を知るや、{機巧堂}は2代儀右衛門に任せて、

開国開港・ 1854＝55歳： からくり興行を餞別返しに、京都の師友と別れ、蒸気船製造のために佐野常民待つ佐賀藩精煉方に仕官。
安政大地震・ 1855＝56歳： 長崎伝習所に学び、同門だった中村奇輔、石黒寛二らとともに、

蕃書調所・ 1857＝58歳： 蒸気砲のひな型を製作。まず、日本最初といわれる模型の蒸気機関車をつくりあげ、

安政の大獄・ 1859＝60歳： 広瀬元恭の妻になっていた妹イネが死去。

桜田門外変・ 1860＝61歳： 本格的な蒸気船製造に向けた見積書を作成、

建政使節・ 1861＝62歳： 建設された蒸気機関製造所で、オランダから輸入された軍艦「電流丸」の蒸気缶の改造を見事にこなし、

生麦事件・ 1862＝63歳： 佐賀藩は幕府から蒸気缶製造の依頼を受けることになる。

8月18日政変 1863＝64歳： 藩主鍋島直正より、蒸気船の建造を命じられが、久留米藩から召喚され、両藩半々従事の許可得て帰藩、
禁門の変・ 1864＝65歳： 久留米藩が政情不安のなか、有馬家大砲製造所長に就任、人材の無いことに苦悶するうち、蒸気船建造に従事していた2代儀右衛門とその子岩次郎が発狂した同僚に刺殺されるという悲劇を乗り越え、我が国最初の蒸気船「凌風丸」を完成。ようやく見出した人材で、佐賀藩で学ばせていた金子大吉を養子とする。

薩摩藩士密航 1865＝66歳： 大砲製造所でアームストロング砲を完成。

薩長同盟・・・ 1866＝67歳： 以後、久留米藩専従になり、31年ぶりに帰郷。中小姓という士分に取り立てられ、一介の職人から異例の出世となる一方、改革推進者今井栄に従って上海に密航、工場を視察するなど、新たな文明世界を知り、

明治維新・・・ 1868＝69歳： 改革派リーダー参政不破美作暗殺で、藩政が一夜にして攘夷に転じるなか、維新となる。久留米藩が新政府から脱まれるなか、新政府の一角を担う佐賀藩士でもあったことから、身の安全が保障されるも、

廃藩置県・・・ 1871＝72歳： 鍋島直正が死去。暮らしたの糧を稼ぐべく苦悶さざるを得なくなり、

明治6年政変 1873＝74歳： 征韓論に敗れた江藤新平が帰郷して佐賀藩も不穏になる。身を案じる佐野常民が新政府に働きかけ、三藩県からの伝達で、一門率いて上京、すでに古い門人らが政府で活躍する東京の変貌ぶりに奮い立ち、麻布の寺の2階を借りて工場兼住居にすると、{珍奇製造所}の看板を上げるも苦悶するうち、

佐賀の乱・・・ 1874＝75歳： 工部省電信寮から呼び出しを受け、モルリス電信機の製作に成功、その製造を一手に引受けて飛躍、
初の民間工場 1875＝76歳： 銀座に日本最初の民間機械工場{田中製造所}を開業、工部省指定工場にもなる。以後、次々と入る注文をこなしながら、発明工夫を重ね、人材も次々送り出し、

三つの内乱・ 1876＝77歳： 妻が死去、流石に気落ちして影も薄くなるが、養子金子大吉のもと、大工場に発展させたが、

大久保暗殺・ 1878＝79歳： 電信機製造を官営にする政策で、*{田中製造所}を工部省に委譲することになり、

・・・ 1880＝81歳：

明治14年政変 1881＝82歳： 没した。金子大吉(2世田中久重)が新たに{田中製造所}を起こし、のち{芝浦製作所}、{東芝}へと発展。

林洋海「東芝の祖 からくり儀右衛門日本の発明王 田中久重伝」、PHP「日本一のからくり師」、「人づくり風土記(福岡)」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、「目でみる日本人物百科」、鬼丸智彦「京都時習堂 幕末の蘭医 広瀬元恭の生涯」、